

高額療養費制度の自己負担上限額の引き上げに関して

2025年2月26日

一般社団法人がんライフアドバイザー協会

現在、政府で検討されている高額療養費制度の自己負担限度額の引き上げについて、一般社団法人がんライフアドバイザー協会（以下、当協会）は、がん患者さんおよびその家族の生活を著しく圧迫し、適切な治療の機会を奪う可能性があることから、強く反対の意を表明します。

高額療養費制度は、経済的負担の大きい医療費に対し、一定以上の負担を軽減することで、すべての方が安心して医療を受けられる社会を維持するための制度です。しかし、今回の見直しにより自己負担限度額が引き上げられれば、がん患者さんが適切かつ必要な治療を希望しても、経済的理由で断念せざるを得ないケースが増加することが懸念されます。また、治療費を何とか捻出できたとしても、衣食住を含む日常生活が立ち行かなくなり、世帯全体が困窮する可能性や、子どもの進学断念、家族の介護が受けられないといった深刻な問題を引き起こす危険性があります。がん患者さん本人だけでなく、その家族の生活や将来をも揺るがす制度改定を容認することはできません。

当協会は、これまでがん患者さんとその家族が直面する経済的・社会的課題に向き合い、相談支援活動を行ってまいりました。相談者の方が、命と生活を守るために限られたお金をいかに使うかを模索するなかで、高額療養費制度による医療費負担の軽減は、多くの患者さんや家族にとって大きな支えとなってきました。現在、方針が検討段階にあるにもかかわらず、当協会および会員である医療従事者のもとには、患者さんや家族から「治療が続けられるのか」「生活が成り立つのか」といった将来への不安の声が多数寄せられており、すでに精神的な苦痛をもたらしています。

よって、当協会は高額療養費制度の自己負担限度額の引き上げに強く反対するとともに、納得できる議論の展開、早期の議論の終結を望みます。そして、経済面を含む社会的苦痛もがん治療の1つであることを理念に、がん患者さんとその家族が安心して治療を受けられるよう、引き続き尽力してまいります。

以上